



第60期中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日

ダイソーケミックス株式会社

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、当社事業につきまして、あたたかいご支援をいただきまして、厚くお礼申し上げます。

さて、当社第60期中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の決算を終了いたしましたので、営業の概況などにつきまして、ここにご報告いたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月

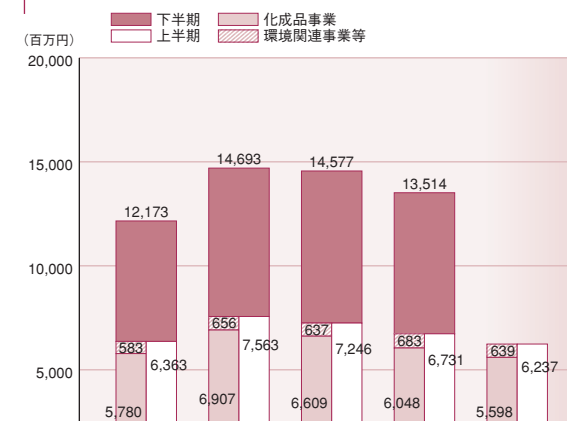


代表取締役

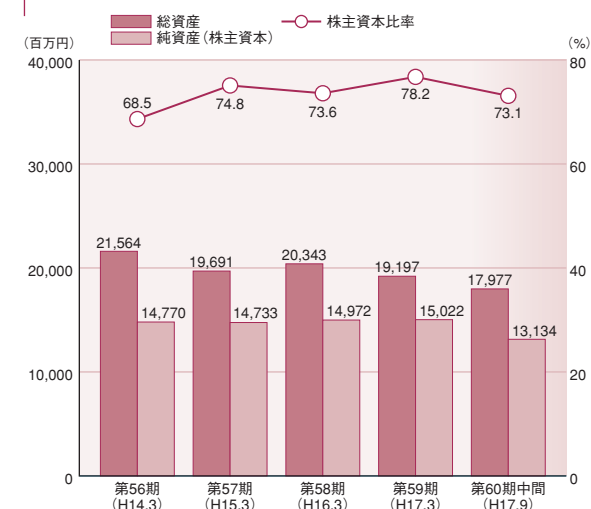
村瀬千弘

業績の推移（連結）

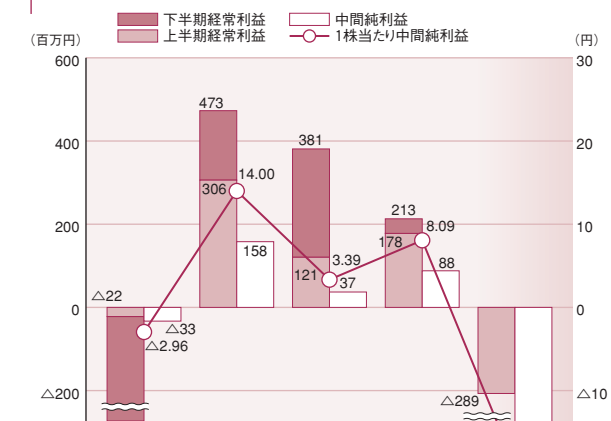
売上高



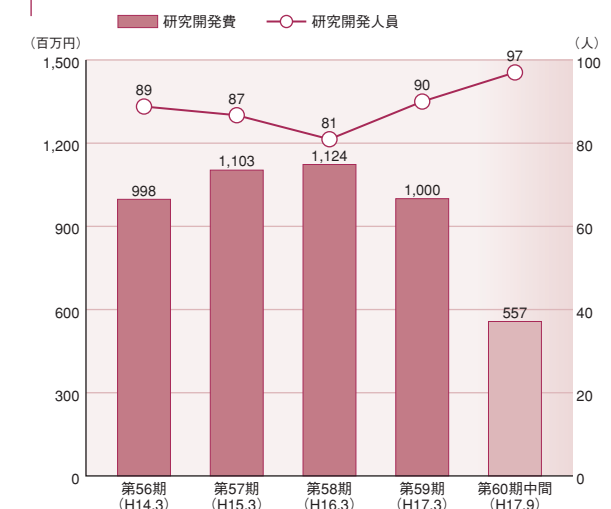
総資産・純資産・株主資本比率



経常利益・中間純利益・1株当たり中間純利益



研究開発人員・研究開発費



営業の概況

当中間期のわが国経済は、好調な設備投資に加え、個人消費にも回復の兆しが見られるなど景気は踊り場局面を脱しつつありましたが、原油や素材価格の高騰をはじめ米国および中国経済への不安など、景気は全体として緩やかな回復基調に止まりました。

このような状況の中で当社グループは、営業活動に全力をあげるとともに、次世代対応の感光性材料の開発をはじめ、写真材料、医薬中間体の新製品開発および環境関連事業に積極的に取り組みました。しかしながら、IT分野の在庫調整が続いた上、原材料は上昇いたしました。

この結果、当中間期の連結売上高は、化成品事業の感光性材料が大幅減少したことにより、前年同期比7.3%減の62億37百万円となりました。

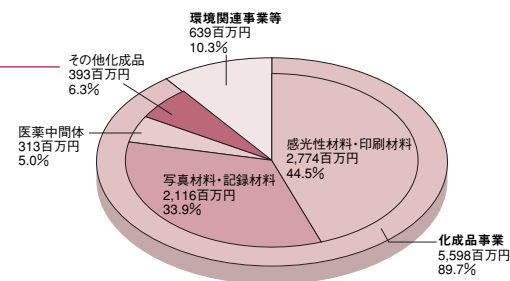
売上減少に対応するため、原料価格の値下げ、経費の削減など売上原価低減に鋭意取り組みましたが、原油高による基礎原料の値上がり等の影響を受け、経常損失は2億89百万円（前年同期1億78百万円の利益）となりました。

中間純損失は、福井工場の減損損失13億84百万円の計上および繰延税金資産の取り崩しを行いました結果、19億92百万円（前年同期88百万円の純利益）となりました。

当社単独では、当中間期の売上高は53億73百万円、経常損失は2億96百万円、中間純損失は19億72百万円でありました。

また、事業展開にあたっては、環境保護を基本におき、使用資源の削減、回収、再資源化にグループをあげて、積極的に取り組んでおります。

売上高構成比(連結)



事業別セグメント

【化成品事業】

1. 感光性材料及び印刷材料

半導体用感光性材料の主力のg線・i線用材料は、IT分野の在庫調整が続き市況回復が遅れたことにより、販売数量、売上ともに減少いたしました。エキシマ用材料は、次世代最先端用感光性材料の新製品開発が順調に進み、販売数量、売上ともに増加いたしました。

液晶用感光性材料は、販売価格の低下と市況回復の遅れから、販売数量、売上ともに減少いたしました。

印刷材料は、販売数量、売上ともに僅かながら増加いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比9.9%減の27億74百万円となりました。

2. 写真材料及び記録材料

写真材料は、イメージング材料の販売数量が大幅に増加いたしました。また、インスタント写真用材料は大幅に減少いたしました。デジタルカメラやカメラ付き携帯電話の普及の影響が落ち着きを見せてきたことにより、従来型の銀塩写真用材料が増加し、販売数量、売上ともに僅かながら増加いたしました。

記録材料は、販売数量、販売価格ともに低下したことにより、売上は大幅に減少いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比5.1%増の21億16百万円となりました。

3. 医薬中間体

医薬中間体は、新製品開発は計画どおりの成果を上げましたが、主力製品の一部においてユーザーでの需要減少があり、売上は大幅に減少いたしました。

この結果、当品目の売上高は、前年同期比21.5%減の3億13百万円となりました。

4. その他化成品

架橋剤は、繊維改質材の用途拡大を図ってまいりましたが、市場の急速な縮小により、販売数量、売上ともに大幅に減少いたしました。

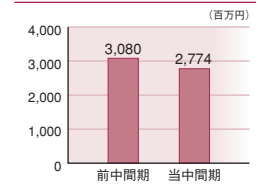
この結果、当品目の売上高は、前年同期比29.2%減の3億93百万円となりました。

【環境関連事業】

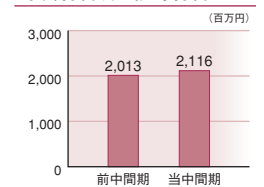
産業廃棄物の処理および化学品のリサイクルを中心とする環境関連事業では、リサイクル関連の新事業は順調に拡大しましたが、顧客先での工程改善による原料使用量の削減および稼働率の大幅低下があり、受託量、売上ともに減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は、前年同期比6.4%減の6億36百万円となりました。

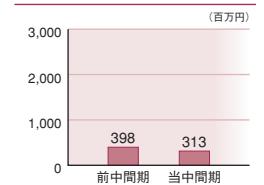
感光性材料及び印刷材料



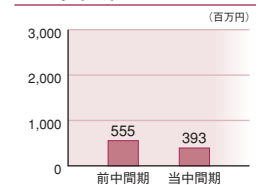
写真材料及び記録材料



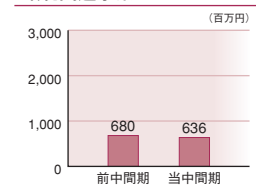
医薬中間体



その他化成品



環境関連事業



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		平成16年9月30日現在	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在
(資産の部)		(19,579)	(17,977)	(19,197)
流動資産		8,899	8,882	8,527
1 現金及び預金		1,475	1,937	1,243
受取手形及び売掛金		2,811	2,899	3,121
有価証券		499	—	—
たな卸資産		3,669	3,573	3,741
その他		444	473	424
貸倒引当金		△ 1	△ 2	△ 2
固定資産		10,680	9,094	10,670
2 有形固定資産		9,456	7,344	8,955
建物及び構築物		3,351	2,390	3,188
機械装置及び運搬具		3,165	2,294	2,841
土地		2,591	2,360	2,591
その他		348	299	333
無形固定資産		53	47	50
3 投資その他の資産		1,170	1,703	1,664
資産合計		19,579	17,977	19,197

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT - 1

現金及び預金
長期借入金の借り換えにより増加いたしました。

POINT - 2

有形固定資産
福井工場について減損処理を行いました。

POINT - 3

投資その他の資産
韓国において合弁会社を設立しましたので、株式等が増加いたしました。

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期	当中間期	前期
		平成16年9月30日現在	平成17年9月30日現在	平成17年3月31日現在
(負債の部)		(4,582)	(4,790)	(4,175)
流動負債		3,310	1,778	2,955
支払手形及び買掛金		836	669	736
短期借入金		1,380	303	1,329
賞与引当金		381	308	311
その他		711	497	578
固定負債		1,272	3,011	1,219
長期借入金		1,061	2,458	980
その他		210	553	239
少数株主持分		—	53	—
(資本の部)		(14,997)	(13,134)	(15,022)
資本金		2,901	2,901	2,901
資本剰余金		4,421	4,421	4,421
利益剰余金		8,183	6,136	8,166
その他有価証券評価差額金		150	307	193
為替換算調整勘定		—	28	—
自己株式		△ 658	△ 660	△ 659
負債、少数株主持分及び資本合計		19,579	17,977	19,197

POINT - 4

短期借入金
1年以内返済予定の長期借入金の返済により減少いたしました。

POINT - 5

長期借入金
借り換えにより増加いたしました。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	当中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
(経常損益の部)				
営業損益の部				
1	売上高	6,731	6,237	13,514
2	売上原価	5,720	5,699	11,662
	売上総利益	1,010	537	1,851
	販売費及び一般管理費	797	793	1,574
	営業利益	213	△ 255	277
営業外損益の部				
	営業外収益	24	22	44
	営業外費用	59	56	109
	経常利益	178	△ 289	213
(特別損益の部)				
	特別利益	—	1	32
3	特別損失	9	1,384	20
	税金等調整前中間(当期)純利益	168	△ 1,672	225
	法人税、住民税及び事業税	64	21	102
	法人税等調整額	15	297	18
	中間(当期)純利益	88	△ 1,992	104

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT - 1

売上高

主に感光性材料の売上高が減少いたしました。

POINT - 2

売上原価

原料価格の上昇に伴い、売上原価率は上昇いたしました。

POINT - 3

特別損失

福井工場について減損損失を計上いたしました。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	当中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		361	434	353
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 739	△ 162	△ 1,298
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 578	418	△ 745
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 0	4	0
現金及び現金同等物の増減額		△ 957	694	△ 1,688
現金及び現金同等物の期首残高		2,932	1,243	2,932
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		1,975	1,937	1,243

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT - 1

営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権、たな卸資産の減少に伴い、収入が増加いたしました。

POINT - 2

投資活動によるキャッシュ・フロー

設備投資額の減少に伴い、支出が減少いたしました。

POINT - 3

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の借り換えに伴い、資金が増加いたしました。

中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	期別	前中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	当中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
(資本剰余金の部)				
I 資本剰余金期首残高		4,421	4,421	4,421
II 資本剰余金中間期末(期末)残高		4,421	4,421	4,421
(利益剰余金の部)				
I 利益剰余金期首残高		8,129	8,166	8,129
II 利益剰余金増加高				
1. 中間(当期)純利益	88	88	—	104
III 利益剰余金減少高				
1. 中間(当期)純損失	—	—	1,992	—
2. 配当金	32	32	—	65
3. 役員賞与	1	4	—	1
4. 自己株式処分差損	—	34	—	0
IV 利益剰余金中間期末(期末)残高		8,183	6,136	8,166

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間財務諸表

中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別		
	前中間期 平成16年9月30日現在	当中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成17年3月31日現在
(資産の部)	(18,703)	(17,057)	(18,184)
流動資産	8,333	8,222	7,867
現金及び預金	1,256	1,649	1,015
受取手形	3	5	4
売掛金	2,496	2,577	2,766
有価証券	499	—	—
たな卸資産	3,598	3,488	3,657
その他	478	501	423
固定資産	10,370	8,835	10,317
有形固定資産	9,011	6,824	8,502
建物	2,565	1,807	2,439
機械及び装置	3,013	2,072	2,687
土地	2,426	2,194	2,425
その他	1,007	750	949
無形固定資産	51	46	48
投資その他の資産	1,306	1,964	1,766
資産合計	18,703	17,057	18,184
(負債の部)	(4,391)	(4,686)	(3,922)
流動負債	3,257	1,767	2,830
買掛金	780	640	659
短期借入金	1,380	303	1,299
賞与引当金	311	234	240
その他	785	589	630
固定負債	1,133	2,918	1,091
長期借入金	1,061	2,458	980
その他	72	460	111
(資本の部)	(14,312)	(12,371)	(14,262)
資本金	2,901	2,901	2,901
資本剰余金	4,421	4,421	4,421
利益剰余金	7,499	5,401	7,407
その他有価証券評価差額金	149	307	192
自己株式	△ 658	△ 660	△ 659
負債及び資本合計	18,703	17,057	18,184

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別		
	前中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	当中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
(経常損益の部)			
営業損益の部			
売上高	5,812	5,373	11,608
売上原価	5,081	5,072	10,345
売上総利益	731	300	1,263
販売費及び一般管理費	642	634	1,258
営業利益	88	△ 333	4
営業外損益の部			
営業外収益	95	97	150
営業外費用	67	61	124
経常利益	117	△ 296	29
(特別損益の部)			
特別利益	—	—	32
特別損失	9	1,384	19
税引前中間(当期)純利益	107	△ 1,681	42
法人税、住民税及び事業税	17	7	14
法人税等調整額	21	284	17
中間(当期)純利益	68	△ 1,972	10
前期繰越利益	316	261	316
中間配当額	—	—	32
中間(当期)未処分利益	385	△ 1,711	294

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成17年9月30日現在)

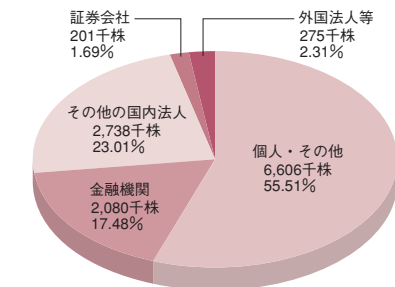
株式の総数・株主数

会社が発行する株式の総数	47,900,000株
発行済株式の総数	11,900,000株
株主数	1,094名

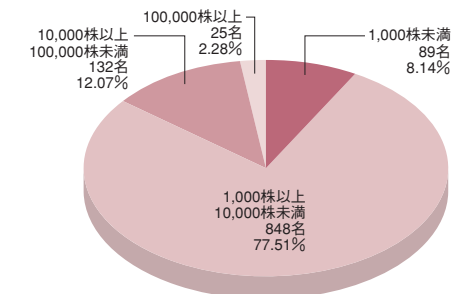
大株主

株主名	所有株式数 千株	出資比率 %
ダイトーケミックス社員持株会	530	4.46
東京応化工業(株)	522	4.38
住友商事(株)	503	4.22
日本生命保険(株)	499	4.20
(株)新生銀行	482	4.05
竹中一雄	475	3.99
富士写真フイルム(株)	439	3.69
(株)三井住友銀行	271	2.27
農林中央金庫	247	2.07
エヌアイエスセガインターセトルエージー	220	1.84

所有者別株式分布状況



所有株数別株主分布状況



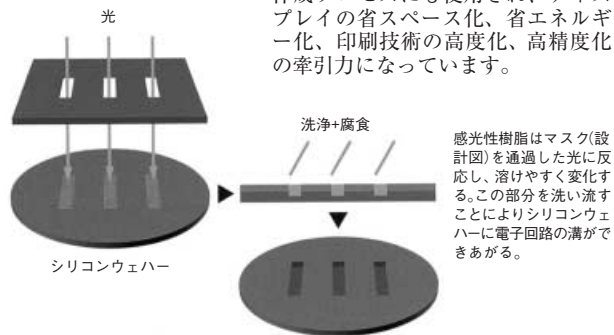
製品紹介

感光性材料及び印刷材料

半導体製造工程の超微細加工の段階において用いられるのが感光性樹脂です。その感光性樹脂の製造に不可欠な材料として当社の製品が使われており、シリコンウェハーに投影される設計図のパターン映像（光）に反応し、電流が流れる溝を掘る役割をしています。

現在、半導体の高集積化が加速する中で、汎用IC向け感光性材料はすでに量産体制を整えておりますが、引き続き、最新の高速メモリ、システムLSIや高速CPU向けの次世代用感光性材料の開発に取り組んでおり、量産設備も稼働しております。

この感光性材料は、パソコンなどの各種モニターや薄型テレビの液晶ディスプレイの製作や印刷物の原版作成プロセスにも使用され、ディスプレイの省スペース化、省エネルギー化、印刷技術の高度化、高精度化の牽引力になっています。



医薬中間体

医薬分野は、これまでに培ってきた合成技術にキラールなど最新の合成技術を加え、感光性材料・写真材料に次ぐ第3の事業の柱として、積極的に育成しています。

静岡工場では医薬品製造許可を取得し、医薬中間体から原薬（バルク）までの生産体制を確立しております。

福井工場においても、医薬中間体工場に引き続き医薬試作工場を本格稼働させております。現在、国内外の大手有力医薬メーカーとの取引拡大を進めており、強力な事業展開を図っています。



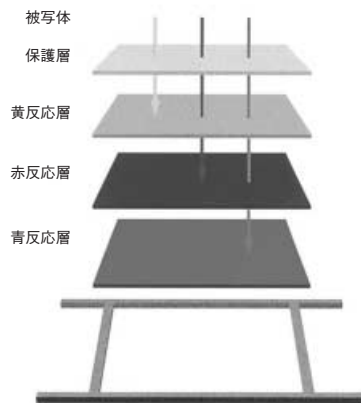
写真材料及び記録材料

写真のカラーフィルムにはフィルムベースの上に、光に感応し色を再現するための何層もの薬品が塗布されています。この技術は、インスタント写真にも活かされています。大きく分けると、黄、赤、青の3原色に感光する3層があり、当社の技術が活かされている高性能の写真材料も、この感光層に含まれています。

また、現在、高性能化・環境保護へ対応した映画用フィルムやデジタル医療用レントゲンフィルムの製造にも、この塗布技術が活かされており、当社は、分散型写真材料の量産化技術を確認し対応しています。

さらに、ディスプレイ用材料の供給体制を整えるなど、さまざまな分野でも着実に実績を上げています。

記録材料においては、ジアソコピーの技術を高度に応用した感熱システムに当社の材料が用いられています。



カラーフィルムの感光層は最低3層、実際は高性能化のために補助層を含めて10層以上塗布されている。1層の厚みは、1~2ミクロンである。

トピックス

韓国合弁会社「DAITO-KISCO株式会社」の製造ライン始動へ

同社は、本年9月に製造ラインが完成、10月より試運転を開始いたしました。来年初めには本格稼働に移行し、韓国国内向け液晶パネル用などの感光性材料の製造・販売において、現地需要の獲得を図ってまいります。

[売上目標：2006年7億円]



中国合弁会社「台州联大科技有限公司」を子会社化

当社は、感光性材料用原料調達の基盤強化のため、本年6月に同社への出資比率を29%から75%へ引き上げ、子会社化いたしました。今後とも、スピード感をもって感光性材料用原料や繊維改質材を中心に市場競争力を有する製品を生産してまいります。

[売上目標：2006年3億円]

会社の概況 (平成17年9月30日現在)

概要

商号 **ダイトケミックス株式会社**
(英文名：Daito Chemix Corporation)

本社所在地 **大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号**
電話06(6911)9310(代表)

設立 **昭和24年12月2日**

資本金 **2,901,163,150円**

社員数 **279名**

主な営業品目 **感光性材料、写真材料、医薬中間体、印刷材料、記録材料、その他化成品**

役員

〈取締役〉

代表取締役	村瀬千弘
取締役	安田一稔
取締役	入岡修一
取締役	小宮希士
取締役	二宮榮規
取締役	新木隆雄

〈監査役〉

常勤監査役	山中俊彦
監査役	越智賢三
監査役	桑原豊

〈執行役員〉

社長	村瀬千弘
常務執行役員	安田一稔
常務執行役員	入岡修一
執行役員	小宮希士
執行役員	二宮榮規
執行役員	新木隆雄
執行役員	佐藤敏夫

事業所

東京オフィス **東京都中央区日本橋人形町二丁目15番1号**
電話03(3669)0261

大阪工場 **大阪府大東市諸福八丁目3番11号**
電話06(6911)1271

静岡工場 **静岡県掛川市浜野3110**
電話0537(72)2888

福井工場 **福井県福井市石橋町31字118**
電話0776(85)1841

グループ会社

日本エコロジー株式会社
大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号
電話06(6911)1279
(産業廃棄物の処理および再生事業)

ディー・エス・エス株式会社
大阪市鶴見区茨田大宮三丁目1番7号
電話06(6911)1559
(物流管理、生産補助、環境・設備保全等の業務請負)

ダイトケミ研株式会社
大阪府東大阪市日下町四丁目2番21号
電話0729(81)9665
(建築用材料の製造販売)

岩手ケミカル株式会社
岩手県上閉伊郡大槌町須賀町2番2号
電話0193(42)7221
(感光性材料用原料、食品添加物、その他化成品の製造販売)

台州联大科技有限公司
中国浙江省台州市黄岩区黄岩经济开发区轻化投资区永椒路
(感光性材料原料、その他化成品の製造販売)

DAITO-KISCO株式会社
韓国仁川広域市西区石南洞223-48
(液晶パネル用等の感光性材料の製造販売)

生産拠点



株主メモ

決算期 **3月31日**
定時株主総会開催時期 **6月**
株主確定日 **3月31日**
定時株主総会 **3月31日**
利益配当金 **3月31日**
中間配当金 **9月30日**
(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)

公告掲載新聞 **日本経済新聞**
当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を下記の当社ホームページに掲載しております。
<http://www.daitochemix.co.jp/corp/corp/profil/profil.htm>

名義書換代理人 **大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社**

同事務取扱場所 **大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部**

〔郵便物の送付先および電話照会先〕
〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求)
0120-175-417 (フリーダイヤル)
(その他のご照会)
0120-176-417 (フリーダイヤル)

同取次所 **住友信託銀行株式会社 全国各支店**

インターネット **<http://www.daitochemix.co.jp>**

ホームページアドレス **同上**

上場証券取引所 **株式会社大阪証券取引所 市場第2部**

証券コード **4366**

(名義書換代理人変更のお知らせ)
平成17年12月10日をもって、当社株式の名義書換代理人を東京証券代行株式会社より住友信託銀行株式会社へ変更いたしました。